

あはれなり。のちをばよきとて
思ふ。とて。いふ。人。の。心。の。中。
し。と。い。ふ。人。の。心。の。中。に。あ。る。
心。の。中。に。あ。る。心。の。中。に。あ。る。
心。の。中。に。あ。る。心。の。中。に。あ。る。

あはれなり。のちをばよきとて
思ふ。とて。いふ。人。の。心。の。中。
し。と。い。ふ。人。の。心。の。中。に。あ。る。
心。の。中。に。あ。る。心。の。中。に。あ。る。
心。の。中。に。あ。る。心。の。中。に。あ。る。

あはれなり。のちをばよきとて
思ふ。とて。いふ。人。の。心。の。中。
し。と。い。ふ。人。の。心。の。中。に。あ。る。
心。の。中。に。あ。る。心。の。中。に。あ。る。
心。の。中。に。あ。る。心。の。中。に。あ。る。

あはれなり。のちをばよきとて
思ふ。とて。いふ。人。の。心。の。中。
し。と。い。ふ。人。の。心。の。中。に。あ。る。
心。の。中。に。あ。る。心。の。中。に。あ。る。
心。の。中。に。あ。る。心。の。中。に。あ。る。

[illegible]

衛用中

古列列列

[illegible]

一 總之部以速業三子以作按名流流石海戶
 村の海戸より海戸より海戸より海戸より海戸より
 海戸より海戸より海戸より海戸より海戸より

宮崎藩の公家子弟の書
 宮崎藩の公家子弟の書
 宮崎藩の公家子弟の書

四月
 十三日

十一日

一 市書公家子弟の書
 市書公家子弟の書
 市書公家子弟の書

此書を如法に読むべし
 今もこの書は我が世に
 ありては必ずしも
 一書に過ぎず
 中絶りては
 右の如く
 此書は
 此書は
 此書は
 此書は

寶善堂

富今昔記

幸勿如斯

修己之志

今在

山崎三郎

江中集

山中乞養養老圖子如虎之

七五

不待其美也

松平市

卷之五 金瓶梅

此七人者常々山田の如く業
の成る中より田舎の如く業を
しそむるを常々あるものなり
と云ふことなり
此七人者常々山田の如く業
の成る中より田舎の如く業を
しそむるを常々あるものなり
と云ふことなり
此七人者常々山田の如く業
の成る中より田舎の如く業を
しそむるを常々あるものなり
と云ふことなり

山田の如く

此七人者常々

四月十日

此七人者常々山田の如く業
の成る中より田舎の如く業を
しそむるを常々あるものなり
と云ふことなり
此七人者常々山田の如く業
の成る中より田舎の如く業を
しそむるを常々あるものなり
と云ふことなり
此七人者常々山田の如く業
の成る中より田舎の如く業を
しそむるを常々あるものなり
と云ふことなり

四月十五日

木

一 幸ひ成る

一 幸ひ成る 幸ひ成る 幸ひ成る

一 幸ひ成る 幸ひ成る 幸ひ成る

一 幸ひ成る 幸ひ成る 幸ひ成る

一 幸ひ成る 幸ひ成る 幸ひ成る

一 幸ひ成る 幸ひ成る 幸ひ成る

一 幸ひ成る 幸ひ成る 幸ひ成る

一 幸ひ成る 幸ひ成る 幸ひ成る

一 幸ひ成る 幸ひ成る 幸ひ成る

一 幸ひ成る 幸ひ成る 幸ひ成る

中

一 幸ひ成る 幸ひ成る 幸ひ成る

一 幸ひ成る 幸ひ成る 幸ひ成る

一 幸ひ成る 幸ひ成る 幸ひ成る

一 幸ひ成る 幸ひ成る 幸ひ成る

一 幸ひ成る 幸ひ成る 幸ひ成る

一 幸ひ成る 幸ひ成る 幸ひ成る

此後見しと

何れも去ら

何れも主りしを御にさるゝの国勢
古きより入所治し
何れも主りしを御にさるゝ

本寺様

一、新井

はるかにあり

何れも主りし

何れも主りしを御にさるゝの国勢
古きより入所治し
何れも主りしを御にさるゝ

南無

何れも主りしを御にさるゝの国勢
古きより入所治し
何れも主りしを御にさるゝ

卷之五

時

李氏列女

王中丞答王幼平書

四

十六日

古今圖書集成

國史之書

此書為馬氏所撰

竹石图

蘇軾詩集

行刑

明倫彙編

詩

定章此布

李德山先生

卷之五

卷之五

但新成之
學以爲學

善

一
八

善廣心廣欲得身
作緣心為哲

南音仙舟

名之在
以必知
立心
為大

所到
恆無
元夜
此心
無界

行福之書此名孔方

吾所定法何名尤宜乎為之乎。

善為家
作生龍

一日唯恐作言

名

東坡先生詩集卷之五

此乃

天章化世

少室山記

五言古詩

此後年久未見

為

中多定司所方月紅地似花多而

与子之志雖異送子而吾悔之

一 此書中...
一 此年...
一 此書...
一 此年...

一 此年...
一 此書...
一 此年...
一 此書...

一 此年...
一 此書...
一 此年...
一 此書...

一 此年...
一 此書...
一 此年...
一 此書...

三才圖會
卷之五
雜考

三才圖會

三才圖會

中略

一 雜考

三才圖會

一 雜考

一 雜考

三才圖會

一 雜考

三才圖會

一 雜考

一 雜考

一 雜考

三才圖會

三才圖會

三才圖會

一 手修竹如修竹新泉一系乃甲
上

一 蜀山金市山石乃石乃石乃石
上

即修竹如修竹

一 修竹如修竹如修竹如修竹

一 修竹如修竹如修竹如修竹

即修竹如修竹

一 修竹如修竹如修竹如修竹

即修竹如修竹

一 修竹如修竹如修竹如修竹

一 修竹如修竹如修竹如修竹

一 修竹如修竹如修竹如修竹

一 修竹如修竹如修竹如修竹

一 修竹如修竹如修竹如修竹

一 修竹如修竹如修竹如修竹

一 修竹如修竹如修竹如修竹

一 修竹如修竹如修竹如修竹

即修竹如修竹

一 修竹如修竹如修竹如修竹

わがまゝにわがまゝにわがまゝに
わがまゝにわがまゝにわがまゝに

わがまゝにわがまゝにわがまゝに
わがまゝにわがまゝにわがまゝに

わがまゝにわがまゝにわがまゝに
わがまゝにわがまゝにわがまゝに

わがまゝにわがまゝにわがまゝに
わがまゝにわがまゝにわがまゝに

わがまゝにわがまゝにわがまゝに
わがまゝにわがまゝにわがまゝに

Handwritten text in a cursive script, likely a title or heading.

Handwritten text, possibly a date or a small note.

Handwritten text, continuing the narrative or list.

Handwritten text, continuing the narrative or list.

Handwritten text, continuing the narrative or list.

Handwritten text, continuing the narrative or list.

Handwritten text, continuing the narrative or list.

Handwritten text, continuing the narrative or list.

以月言

敬告公衆

所願行
吉面密院除地
乃重馬路若如大花境
之海而全地貴佳又為著生
快方角仁會集境又不境也
後書丁巳年
古不檢校
除地社以反同七
本載
此令
氣新
至分州与定議公

卷之五

内河氏曰
筆言除世及之書而通者
二十有七
前之宋河氏也

内河氏曰

筆言除世及之書而通者
二十有七
前之宋河氏也

内河氏曰

筆言除世及之書而通者
二十有七
前之宋河氏也

内河氏曰

筆言除世及之書而通者
二十有七
前之宋河氏也